

西播磨圏域自立支援協議会 活動記録（報告）

開催日時	令和4年10月18日（火）10:00～11:30
開催場所	赤穂市役所 204・205 会議室
出席者	障害児計画相談に関する連絡会 5名、療育に関する情報交換会 15名、市町部会 3名
内容	令和4年度 相生・赤穂・上郡地区合同部会 （障害児計画相談に関する連絡会・療育に関する情報交換会・市町部会）
議事	<p>【開会】 堤職員より挨拶</p> <p>【事業所紹介】 座席図に沿って自己紹介</p> <p>【障害児に関する計画相談について】 濱本 Co より、相談支援部会での収集データをもとに西播磨圏域障害児計画相談の状況を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別紙「相談支援実績」では、計画の更新時期によって多少の数値変動はあるが各市町の相談支援事業所の業務量を示している（他市町の利用者含む）</li> <li>・西播磨圏域の障害児計画相談についてはパンク状態。需要が増えているものの、相談支援専門員は依然として少ない</li> <li>・障害児・者の両方を受け持つ相談支援事業所も多く、年度末等の更新が重なるタイミングの体制が厳しい状況</li> <li>・市、相談支援事業所、サービス提供事業所等の集まるこの機会に、それぞれの立場での意見交換を行っていただきたい</li> </ul> <p>【6グループに分かれて情報交換（3部制）】※一部グループのみ抜粋</p> <p>&lt;上郡町の連携体制について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上郡町には放デイを提供する事業所がない。他市町のサービス利用者の保護者にとって、仕事と送迎の時間調整等が難しく、町内のサービスを必要とする人に不便な状況である</li> <li>・児発については、放デイに比べて保護者の時間の折り合いをつけやすい傾向であるが、利用者の就学後は利用頻度や利用時間に変化があり、送迎面で保護者の負担も増える</li> <li>・町内でのランチの認知度が低い。ランチへの相談はハードルが高く感じられるが、未診断の児童相談が7～8割を占めており、グレーゾーンの児童の相談も受け付けている</li> <li>・相生市の働きかけにより、相生市内ではランチの認知度が上がり、利用者の増加にもつながった。市保健センターでの巡回相談等を行うことで市民とつながるきっかけとなった</li> <li>・上郡町では児・者の相談窓口を分けていない。役場で対応できないケースについてはランチや事業所に相談・依頼し、地域での連携体制を取っていきたい</li> </ul> <p>&lt;学校との連携について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂市では放デイの需要が多い。「アフター→放デイ→アフター」のように、放</li> </ul>

デイとアフタースクールを併用するケースもあり、本当にサービスが必要な人が受けられていない状況

- ・事業所としては、できるだけアフタースクールを利用してほしいが、アフタースクールの先生は専門知識が無く、発達障害の児童を扱うことが難しい。保護者としては放デイの利用を希望している
- ・特別支援学校とは違い、一般の学校との調整は難しい。学校の対応によっては、障害児の権利擁護がないがしろになり、児童の不登校につながるケースもある。教育の視点に立つ学校に対して、いかに福祉の観点から関わっていくかが重要

<学校の先生との関係について>

- ・コロナ以前は、学校の先生による事業所見学などで顔を合わせる機会があったが、現在はなかなか機会を持っていない状況
- ・学校との連携については、先生との関係性が重要。「家→学校→放デイ」などといった、児童の一日の流れを学校の先生が把握できるよう共有することが大事
- ・先生とやりとりするにあたって、会議と題してしまうと時間の調整がなかなか厳しくなる。会議以外でも、困り事があった時に気軽に相談・共有できる関係性を築くことが重要
- ・顔を知ってもらうため、いろんな会議に参加することも重要。保育所～中学校の特別支援教育コーディネーターが集まる会議（太子町）や、相談支援事業所・サービス提供事業所・保育所の会議（相生市）などの会議に参加し、学校のコーディネーターや他事業所との顔合せの機会として活用

【その他】

上郡ランチの移転について報告あり（別紙チラシのとおり）

【閉会】

堤職員より挨拶